

WheelLog

ウィーログ!

2025年度 アニュアルレポート



認定NPO法人

ウィーログ



団体名	特定非営利活動法人ウィーログ
法人設立	2023年3月9日
代表理事	織田 友理子
理事	乾 元英 牛山 大輔 羽吹 好史 藤井 光城 牧野 成将 町 亞聖
監事	内野 真人(公認会計士)
顧問弁護士	石田 廣行(弁護士)
最高技術責任者	伊藤 史人(岩手県立大学 講師)
最高知識責任者	吉藤 オリィ(株式会社オリィ研究所 代表取締役所長)
事務局員	常勤4名、非常勤6名
目的	障害者や高齢者、ベビーカー利用者などの移動に困難を抱える方向けにバリアフリー情報を発信し、社会全体のバリアフリーに関する理解を普及させること
事業内容	(1) バリアフリーに関する情報発信事業 (2) バリアフリーに関する調査研究事業 (3) バリアフリーに関する研修教育事業 (4) バリアフリーに関する普及啓発事業 (5) その他目的を達成するために必要な事業
所在地	〒108-0014 東京都港区芝四丁目7番1号 西山ビル4階
電話番号	050-6867-4769
メールアドレス	info@wheellog.org
ホームページ	https://wheellog.com/

代表メッセージ

皆様、いつもウィーログを温かく応援してくださり、本当にありがとうございます。認定 NPO 法人ウィーログ代表理事の織田友理子です。

2025 年度も、皆様の温かいご支援のおかげで、「車いすでもあきらめない世界」を目指して全速力で駆け抜けることができました。共に歩んでくださるすべての皆様に、心より深い感謝を申し上げます。

振り返れば今年度は、私たちがずっと信じてきた「人の想いが集まれば、世界は変えられる」という夢が、国際的な舞台で一つの形になった、きっと人生の中で、今までもこれからも、忘れ得ぬ年となりました。

国連の舞台でとどけたかった「声なき声」

2005 年、病気の診断を受けた私は、一度は「世界で誰かの役に立ちたい」という夢を手放しました。しかしそれから 20 年。2025 年 7 月、私はニューヨークの国連本部で開催された「国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）」に、日本政府の代表団の一員として登壇する機会をいただきました。

SDGs の「誰一人取り残さない」という理念について、目標と実際は同じではないから、当事者としてわかること・言えることがあり、当事者だからこそ言わなければいけないことがある——私はそう感じていました。

「適切な支援があれば、重度の障害があっても豊かに生きることができる。障害があっても、社会に貢献する主体になれる」と。

スピーチの壇上で、私の脳裏には、多くの重度障害者の仲間たちの姿が鮮明に浮かび上がりました。彼らは、身体的な障壁や制度のバリアによって、外の世界に出ることが通常よりも困難な人たちです。私は自分一人のために立っているのだ

はない、彼らの「声なき声」の代弁者としてここにいるのだと、強く胸が熱くなりました。

SDGs の「誰一人取り残さない」という理念は、単に支援される側が守られることではありません。障害のあるなしに関わらず、誰もが当たり前前に社会の一員として参加し、笑い合い、誰かの役に立てる社会をつくることなのだと、国連の舞台で改めて確信しました。

ウィーログをその体現として紹介できたことは、コツコツと情報の投稿し続けてくださったユーザーの皆様、そして支えてくださったサポーターの皆様ののおかげにほかなりません。

「前例がなければ、自分が前例になればいい」。車いすで夢を描き続けた私たちが、世界とつながった瞬間でした。今、バリアフリーは“福祉”の視点で語られてしまうことが多いけれど、これからは、人としての尊厳、“人権”を守るという視点で、誰もが行きたい場所に行ける社会をつくっていききたい、と国連の場で強く決意しました。

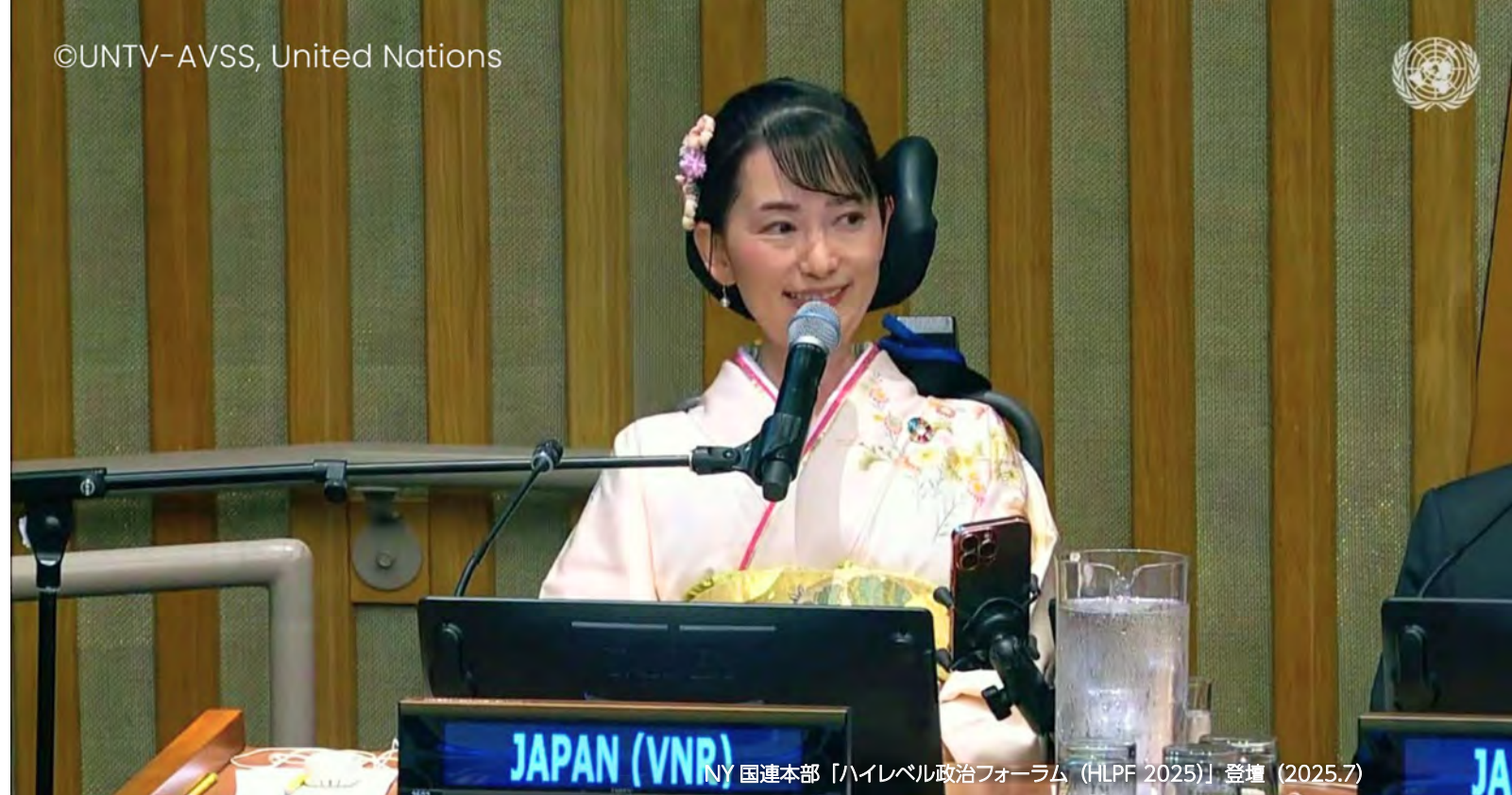
未来への負の遺産「段差」をつくらない

情報があれば世界は変わります。しかし、いざ出かけようとした時、入り口にわずかな段差があるだけで、車いすユーザーにとっては「ここから先はあなたの場所ではありません」と告げられる拒絶の壁に感じてしまいます。

現在、私は国土交通省の委員（国土交通省建築設計標準に関するフォローアップ会議委員）として、新築の小規模店舗の入り口を最初からフラットにするための制度づくりに挑んでいます。社会では、「経済合理性がない」という言葉で片付けられそうになります。しかし、建物は一度建てれば 50 年、100 年と残ります。今、段差を作り続けることは、未来への「バリア」という負の遺産を残すことになってしまいます。バリアフリーはコストではなく、高齢化が進む日本において、ベビー



ボランティアチームの皆様と



NY 国連本部「ハイレベル政治フォーラム（HLPF 2025）」登壇（2025.7）

カーも、高齢者も、未来の配送ロボットまでもが共に歩める、極めて経済合理性のある社会インフラへの投資なのです。

私の病気である遠位型ミオパチーの治療薬も、「患者数が少ないから贅沢品だ」と言われながらも、204 万筆の署名を集め、16 年かけてついに承認されました。「人がつくった制度は、人の手で変えられる。」私はそう信じています。

認定 NPO 法人として、新たな責任と覚悟を胸に

2025 年度、ウィーログは大きな節目を迎えました。念願であった「認定 NPO 法人」の取得です。これは、私たちの活動が公共性の高いものとして社会に認められ、同時に、より持続可能で透明性の高い組織として成長していくための新たなスタートラインでもあります。夏のクラウドファンディングでは目標を大きく超える 1,000 万円以上のご支援をいただき、皆様の熱い想いに何度も背中を押していただきました。皆様からのご支援が、より直接的に社会を変える力へと変わる。その責任の重さを噛み締めながら、私たちはさらに活動を加速させていきます。

「点」から「面」へ、広がるエリアマップの挑戦

アプリも進化を止めていません。特許出願中の 3D シミュレーション機能や、日常の悩みにリアルタイムで答え合える「Q&A 機能」に加え、現在は「エリアマップ」の全国展開を進めています。これまでの「点」や「線」の情報が、街全体の「面」の情報へとつながるこのエリアマップを、今後は全国の自治体と連携して各地へ広げていきたいと考えています。これにより、車いすユーザーだけでなく、ベビーカーを利用する方やご高齢の方、その街を訪れるすべての人にとっての「安心の地図」へと進化していきます。

一緒に未来を育てていきましょう

ウィーログは、「人のために尽くしたい」という純粋な想いが集まってできているコミュニティです。ボランティアとして、寄付者として、あるいは投稿者として。形は違えど、皆様のアクション一つひとつが、誰かの「行きたい」を叶える希望になっています。

私にはもう、自力でスプーンを持つ力はありません。毎年、大好きな桜を見るたびに、「私、いつの間にかできなくなっていることが増えている」と、失われていく時間の速さを突きつけられます。だからこそ、私は命を燃やしてスピードを上げたいのです。

私たちの今の「当たり前」は、先人たちが積み重ねてきた努力の結晶です。ならば今度は、私たちが次世代へバトンを渡す番です。障害のあるなしに関わらず、誰もが「生まれてきてよかった」と思える、段差のない「フラットな社会」という最高のバトンを。

「We have a dream」。私たちの夢は、日本を世界一のバリアフリーにすることです。単なる「お願い」ではなく、客観的なデータと当事者の声を糧にして、制度そのものを変えていく。どんな状況であっても生まれてきて良かった、と思える世界を目指して、私たちはこれからも声を上げ続けます。

20 年前の私に伝えてあげたい。「一人じゃないから、大丈夫だよ」と。そして、今このメッセージを読んでくださっているみなさんに、心からの感謝を込めてお伝えします。

国にもできなかったことを、私たちなら変えられる。この希望の連鎖を、日本中、そして世界中へと広げていく——どうか、この未来を一緒につくってください。

認定 NPO 法人ウィーログ
代表理事

織田友理子

2025 年度の成果

4つのバリアへの挑戦

ウィーログは、「情報・物理・制度・心」という4つのバリアをなくすための挑戦を日々続けています。日常の小さな気づきを社会変革につなげる私たちの継続的なアプローチは、今年度も社会へ大きなインパクトを生み出しました。（※詳細は、P8～11をご覧ください）



情報

WheelLog! アプリ



- 自治体・企業向けエリアマップ公開
- 大阪府バリアフリートイレ情報公開



物理

バリアフリー調査



- バリアフリー視察（鳥取・台湾ほか）
- バリアフリー調査（万博会場・横浜中華街）



制度・人権

政策提言

- 国土交通省や国会議員へ要望書を提出
- 国・東京都のバリアフリー関連委員に就任



心・意識

共創コミュニティ

- 全国各地での街歩きイベント展開
- 多様なセクターとの連携による啓発



クラウドファンディング 2025



2025年、ウィーログは「情報のバリア」を解消し、誰もが安心して外出できる未来を目指してクラウドファンディングに挑戦。多くの皆さまの共感とアクションにより、大きな成果を得ることができました。心より御礼申し上げます。

「認定NPO法人」に認定



東京都より2025年9月に「認定NPO法人」に認定。ご支援が最大約40%の「税制優遇（寄付金控除）」の対象となり、活動を支えてくださる皆様へ目に見える形で直接還元できる体制が確立しています。

主な使途

- 新機能「エリアマップβ版」の開発・運用
- WheelLog! アプリの基盤維持（サーバー・保守・OS対応）
- 「4つのバリアフリー」推進活動（講演、街歩き、政策提言等）

支援総額
10,880,900 円

支援者数
638 名

ご寄付は『税制優遇』の対象となります



個人

「税額控除」または「所得控除」が受けられます



法人

「損金算入限度額」の枠が拡大されます



相続人

寄付した「相続財産」が非課税になります

例）個人で年間12,000円（月額1,000円）を寄付した場合

寄付額 12,000円

控除額 4,000円

実質自己負担額 8,000円

※所得税からの控除の場合
(12,000 - 2,000) × 40% = 4,000円

※住民税控除は自治体によって異なります

最大約40%のお金が戻ってきます！

※控除を受けるには確定申告が必要です



世界の舞台へ：Anyone can go anywhere

NY 国連本部「ハイレベル政治フォーラム（HLPF 2025）」登壇。日本政府と共にSDGsの取組を報告

講演の様子はこちら



ニューヨーク国連本部でウィーログの活動を世界に発信

メディアでの発信

外務省公式チャンネルでの紹介動画公開、国連公式チャンネルで代表織田友理子のインタビュー動画公開、日本経済新聞での「強制力ある法整備訴え」としての掲載など、国内外で大きな反響を呼びました。

ウィーログは、その国際的な貢献が認められ、日本政府の「令和8年版 障害者白書」に掲載されました。



国連創設 80 周年記念の公式写真展に掲載

ウィーログが掲げる「誰もがあきらめない社会」への想いが、世界的なメッセージとして発信されています。



外務省主催のフォーラム等に登壇

「国連大学 VNR 報告会」、「第2回ビヨンドSDGs 官民会議フォーラム」に登壇。「Anyone can go anywhere」の理想を単なるスローガンで終わらせず、次世代のリーダーや多様なセクターへ直接フィードバックを実施。グローバルな知見を日本国内のバリアフリー政策や市民参画（VNR：自発的国家レビュー）の議論へと落とし込み、社会実装を加速させる役割を担いました。（2025.11・2026.2）

台湾での講演

台湾筋ジストロフィー協会での講演

台湾の患者団体に向けて、当事者としての経験や日本での取り組みを共有しました。制度や国が違っていても共通する「移動の自由」という人権課題について、対話を深める機会となりました。（2026.1）



輔英科技大学（高雄）での講演

医療や福祉を学ぶ学生たちに向けて、当事者参画の重要性や実践事例を紹介しました。次世代を担う若い世代との交流を通じ、学び合いの場となりました。（2025.12）



新しいお店なのに入れない

そんな課題を、私たちの代で終わりにしませんか？

Feature #2

新築小規模店舗バリアフリー化署名活動

署名はこちら



署名活動「『新しいお店なのに入れない』を、私たちの代で終わりに。」をICCカタパルトの出場から開始

当事者の声：小規模店舗バリアフリーアンケート



「あそこに新しいお店ができたんだって！」そんなワクワクする気持ちが、「たった一段」の段差で、一気になくなってしまうことがあります。「たった一段」の段差で、中に入ることさえできない現実があるからです。

ウィーログは小規模店舗バリアフリーアンケートを実施しました。(2025.5～11)これらの声は、氷山の一角にすぎません。今日もどこかで誰かの「入れない」「使えない」が起きています。

当事者の声①



入口にたった一段、段差があるだけで入れません。

当事者の声②



食べたいものがあるって行っても、段差があったり店内が狭かったりして、あきらめることが多々あります。

当事者の声③



なんとか店に入っても、店の中に段差があって車いすでは席につけず、結局利用できずに帰りました。

政策提言と世論形成に向けてのアクション



国土交通省へ要望書を提出

小規模店舗のバリアフリー化を進めるため、現場の声をまとめて国土交通省に提出しました。制度設計の現場に当事者の視点を届けることは、単なる要望を超えて「改善の可能性」をつくる取り組みです。(2025.12.18)



赤羽一嘉議員（元国交相）へ要望書を提出

赤羽議員と面会し、要望書を提出しました。アンケートによる当事者の声と実地調査のエビデンスを持参し、小規模店舗のバリアフリー義務化に向けた直接的な政策提言を行いました。(2025.12.23)



新築の小規模店舗のバリアフリー化を求める署名活動を開始

社会のルールを変える署名活動を開始しました。これまでの集大成として、ICCサミット「ソーシャル・カタパルト」から、法制度変革への挑戦をスタートしました。(2026.3.5)

小規模店舗における入り口段差の実態と法制度の課題

「2,000㎡（体育館2つ分）」のバリア

現在の法律では、主に大規模な建物にしか段差をなくす義務がありません。それより小さなお店などはルールの対象外になりやすく、対策が後回しにされやすい現状があります。

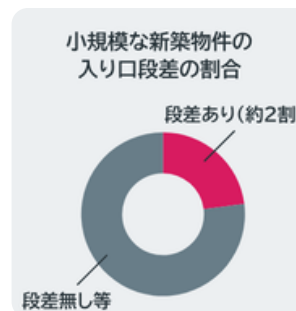
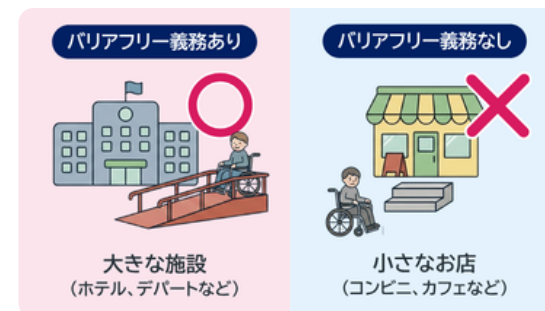
新築物件の約2割に存在する段差

小さな新築物件の約5軒に1軒で、今も段差が生まれていることがわかっています。

鳥取県の実績



鳥取県は独自条例により、規模を問わず「入り口の段差ゼロ」を推進する素晴らしい手本です。米国(ロサンゼルス)やスペイン(カタルーニャ自治州)等では新築時のバリアフリー化が既に義務付けられています。日本も今こそ、この「新しい標準」を全国へ広げ、実現すべき時です。



新築の小規模店舗のバリアフリー標準化に向けた提言

私たちの提案

新しく建てるすべての場所で、以下の2つを求めます。

- 1 段差なく「入れる」こと
- 2 中で「使える」こと



未来のみんなが一生自由に歩き回れる街に

それは、「誰か」のためではなく、いつか怪我をするかもしれない、ベビーカーを押すかもしれない、「未来のみんな」が一生、自由に歩き回れる街をつくるための署名です。

私たちは誰もが必ず、高齢期を迎えます。「あとから直す」のは膨大なコストがかかりますが、設計段階から配慮があれば、誰もが無理なく店づくりができるはずです。

「行きたい場所に自由に行ける」そんな「日常の幸せ」を、みんなで今からつくりませんか？

あなたの署名という一歩が、未来の街を「最初から優しい場所」に変える決定的な力になります。ぜひ、ご賛同をお願いいたします。

活動サポーターの声

つい諦めるしかないや弱気になってしまいますが、少しでもバリアフリーが進むのであればありがたいので、全力で応援したいです。

署名
6,700 筆

共に声を上げよう — 「入れる店」ではなく「行きたい店」を選ぶ未来のために



NPO 法人 DPI 日本会議
事務局長 佐藤 聡さん

私たち車椅子ユーザーは、「今日なにを食べたいか」ではなく、「車椅子で入ることができるかどうか」でお店を選びます。全然おいしくなくても、入れるお店に通い続けるしかないんです。2013年に行ったアメリカではどの店も車椅子を入れて、「人間ってこんなに自由だったのか」と驚きました。それから日本でも、小規模店舗のバリアフリー化の取り組みを始めました。

日本では、1970年代から障害者の先輩がたの当事者運動の積み重ねがあり、2000年に交通バリアフリー法ができました。そのおかげで、日本の電車のバリアフリー化は世界でもトップクラスの水準です。日本でも、車椅子のまま、どんなお店にも入れるようになったときに、私の人生の仕事が完成すると思っています。一緒に声を上げていきましょう。

情報のバリアの解消

地域・専門機関との連携



大阪・関西万博 会場バリアフリーマップ公開

独自の現地調査に基づく、詳細なエリアマップの第一弾として公開されました。万博会場内の複雑な移動経路やパビリオン周辺の状況を、車いすユーザーの視点で精査しています。(2025.6)



「TOYOTA ARENA TOKYO」マップ公開

「Mobility for ALL」の一環で、次世代アリーナの移動経路を当事者視点で検証。開業に向けた検証レポートと共にマップを公開しました。(2025.11)



国際福祉機器展「H.C.R.2025」会場周辺マップ公開

H.C.R.の公式サイトにて、東京ビッグサイト周辺のアクセス情報を紹介。国内外の来場者へ向けて、来場者の円滑な移動をサポートしました。(2025.9)



横浜中華街バリアフリーマップを公開

自治体や商店街とも連携し、観光客が混雑の中でも安全に移動できるよう、バリアフリーなルートやバリアフリートイレの情報を集約しました。(2026.5)

アプリアップデート



自治体・企業向け「WheelLog! エリアマップ新機能」発表

特定のエリア情報を集約・管理するシステムを確立させました。地域のバリアフリー状況を独自に可視化し、自治体のまちづくりや企業の顧客支援を後押しする基盤となります。(2025.6)



WheelLog! アプリ Ver.4 メジャーアップデート

スポット投稿の簡略化や不具合修正を実施。新機能の追加や、より直感的で誰もが情報を発信・取得しやすい基盤を構築しました。(2025.4・2025.10～11)

オープンデータ



公益財団法人ヤマト福祉財団の助成金を活用し、大阪府内のデータを大幅に整備。お出かけの不安を解消する圧倒的な情報拡充を実現しました。(2026.2)

物理的バリアの解消

「先進的なハード設計」を学ぶ

鳥取県バリアフリー視察

独自の先進的なバリアフリー条例を施行している鳥取県を訪れ、県庁職員との面談や現場視察を実施しました。小規模店舗の入り口にある段差をどのように解消しているかという具体的な事例を当事者の目で確かめ、今後の日本のルール（法制度）を変えていくための重要なヒントと実態データを集める機会となりました。(2025.11)



台湾バリアフリー視察

私有地の壁を越えて店舗の段差を解消する「歩道平坦化」の取り組みや、誰も排除しない「インクルーシブ公園」の整備状況など、海外の先進的なハード環境を徹底調査しました。国や制度は違っても「移動の自由」という共通課題に向けて、どのようなアプローチが可能か、現地での視察を通じて深く学び合いました。(2025.12)



身近な街のバリアフリー調査イベントを開催

LET'S EXPO とウィーログが総勢 70 名を無料ご招待

「車いすで万博! LET'S EXPO × WheelLog! in 大阪・関西万博 2025」を開催。(2026.6)



ヤマト福祉財団 2025 年度福祉助成金のご支援を活用して実施し、LET'S EXPO さまに入場チケットをご提供いただきました。

横浜中華街マッピングイベント

横浜中華街のバリアを当事者とボランティアの足で調査しました。(2026.3)

花王株式会社様、花王ハートポケット倶楽部様、クラウドファンディングのご支援により実現しました。



クラウドファン2025ご支援により実現

研究・専門機関との連携

空のバリアフリー最前線 (JAXA ×ウィーログ) 開催



JAXA 調布航空宇宙センターの次世代機内トイレ視察や、排泄ケア機器展 2025 での対談を通じ、「宇宙」×「排泄」の極限環境の知見を地上の移動課題に応用する議論を展開しました。(2025.6)

第 44 回東京都理学療法学会大会 登壇



医療・専門職の視点から、WheelLog! が持つデータの臨床的・社会的価値を証明し、専門領域との連携を強化しました。(2025.9)

トイレ開発に参画



JAXA 調布航空宇宙センター 次世代機内トイレ視察

航空機内という限られた空間における、次世代機内バリアフリートイレのモックアップを視察。未来のモビリティ空間の設計にアプローチしました。(2025.6)

社会のハード環境をアップデート



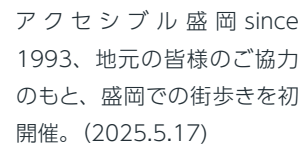
大阪・関西万博へのリフト付きトイレ導入実現

当事者の声を集約し、他団体と連携して国へ要望。国際的イベントのインフラ設計(床走行式リフトの導入)に直接的に反映させました。(毎日新聞掲載) (2025.4)

『ポケパーク カントー』バリアフリー整備に関する要望書提出

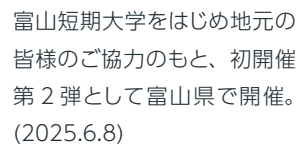
「楽しい場所を、すべての人に」。新しいエンターテインメント施設に対する迅速な提言は、社会に対し「具体的な改善」を求めました。(2025.11)

WheeLog! 街歩き in 盛岡

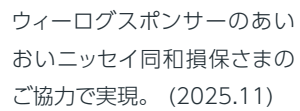


車いすでは諦めていたお祭り（さんさ踊り）を間近で体感でき、盛岡の文化を肌で感じられて本当に嬉しかったです。

WheeLog! 街歩き
in 富山



WheeLog! 街歩き in 茅ヶ崎



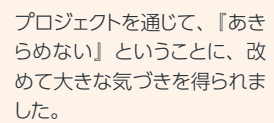
「教育機関・スポーツ・地域」との連携

若者が社会課題を「自分ごと」とする自主開催が広がっています。(開催順)

水戸女子高等学校／茨城県立太田
西山高等学校／関西福祉大学／相
模女子大学／B.LEAGUE Hope
×日本生命「地域を元気に」プロ
ジェクト（牛久市・水戸市）

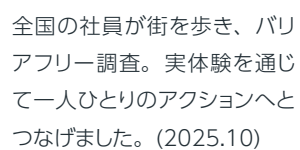
バリアフリーを『自分ごと』として捉えるきっかけになり、将来のまちづくりに活かしたいと思いました。

■ WHGC との共創

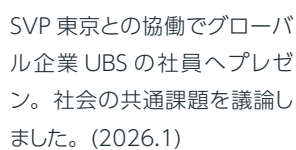


車いす初挑戦の企業人たちが、ウィーログの協力のもと街のバリアを体験。デザイン思考を用いてバリアを超える「モノ・コト」の創出に挑む長期プロジェクトを実施しました。(2025.10-2026.3)

アムジェン
Mission Week



「UBS セッション」への登壇

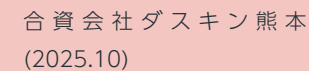
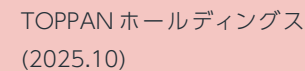


社員のダイバーシティ&インクルージョン（DE&I）研修や、SDGs 推進の一環として、代表・織田の講演を実施しませんか？ まずは 30 分程度のオンライン相談も可能です。お気軽にお問い合わせください。費用目安：60 分／50 万円～（東京近郊以外は別途交通費）

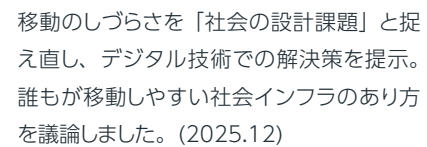
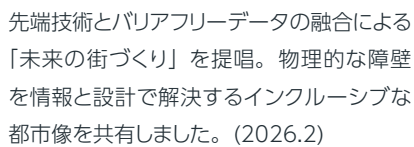
『存在しないことにしないでほしい』その一言が、
真のインクルーシブへの第一歩になりました

当事者視点のビジネス展開と、周囲を巻き込む熱意。新規事業のヒントが詰まっていた

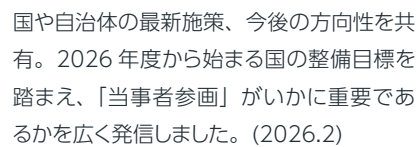
- ・自分が動けば社会は変わる
- ・心のバリアフリーの実践方法
- ・インクルーシブな製品・サービス開発のヒント



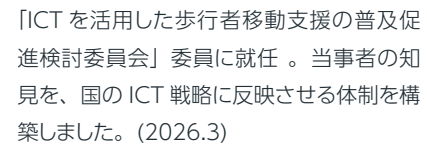
「第3回 歩行空間 DX
研究会シンポジウム」登壇

SMARTCITYx
TOKYO 登壇

「バリアフリー政策の
最新動向セミナー」を開催



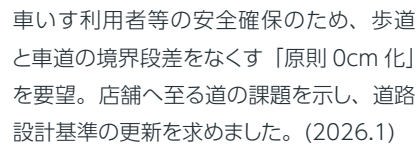
国土交通省 ICT 移動支援委員に就任



東京都専門部会委員に就任

第15期 東京都福祉のまちづくり推進協議
会専門部会委員に就任。「わずかな段差」
の課題や、視覚障害者と共存できる道づく
りの重要性を提言しました。(2025.6)

国土交通省 道路局へ要望書を提出



2025年8月4日付の日本経済新聞にて、国連「ハイレベル政治フォーラム（HLPF）」での私たちの活動が紹介されました。7月23日に日本を代表するSDGs事例として代表の織田友理子が登壇した様子とともに、「誰もがどこでも行ける社会」に向けた法制度のあり方が論じられています。紙面では、以下のポイントを中心に私たちのビジョンが取り上げられました。

- 日本を代表する「SDGs 事例」としての評価：10 万人が利用するアプリ「WheelLog」による情報可視化の歩みが紹介されました。当事者の安心な外出を強く後押しするインフラとして、国連の舞台で世界へ共有された実績が取り上げられました。
- 実体験に基づく「日米の制度格差への提起」：国内の整備が一部を除き「努力義務」にとどまる現状に対し、すべての空間に強制力ある基準を適用する米国の「障害を持つアメリカ人法(ADA)」に着目した、私たちの課題意識が示されました。
- 声を社会へ届ける「制度と文化の変革」：社会の善意に頼るだけでなく、情報やアプリを通じて当事者の声を社会へと届け、国土交通省等への政策提言並びに制度や文化そのものを変えていくという、私たちの姿勢が報道されました。

現場の実践から共創を図り、社会のルールを変える確かな指針として、今回の報道でも高い評価を受けています。



8周年感謝祭 @文京シビックセンター | 活動サポーターが企画運営を担い、企業スポンサーの方々と交流の場に。(2025.5.31)

👤 サポーター活動



対面交流会 サッカー観戦 @国立競技場

クリアソン新宿のホームゲームにて車いす観戦の後、懇親会を開催。(2025.6.15)



対面交流会 @東京品川

軽食を囲みながら自己紹介。オフラインならではの交流の場に。(2025.7.5)



クリアソン新宿 × 首都医校 × WheelLog! 街歩き @新宿

多様なセクターと社会課題にアプローチ。(2025.10.8)



国際福祉機器展ブース出展 (H.C.R.2025) @東京ビッグサイト

サポーターが WheelLog! の魅力を熱く語る。(2025.10)



ウィーログクリスマス会 @分身ロボットカフェ

サポーターが企画運営をし、毎年恒例の手作りの温かなイベント開催。(2025.12.20)



「WheelLog! 学園」アプリ新機能紹介&操作勉強会

新機能紹介、トイレ編、飲食店編、プチテクニック編として継続開催。(2025.6 ~ 2026.2)



寄付月間企画「あなたの知恵をギフトしよう」

アプリのQ&A機能を通じた知恵の共有企画。自分の経験が、誰かのためのアクションに。(2025.12)



サポーターミーティング (通年開催) @オンライン

「キックオフMTG (4月)」 「スナック友理子 (9月・11月)」 「年度まとめの会 (3月)」 を定期開催。

●月額寄付サポーター募集中!

「車いすでもあきらめない世界をつくる」私たちの活動を、継続的に支えていただけませんか。



ご支援はこちら



●あなたの「いいね」がチカラになる

毎月「オンライン報告会」をYouTube配信で行っています。各種SNSもぜひフォローして下さい。

📧 @WheelLog_App

🌐 b.free.map

📷 @wheellog.app

📺 @wheellog

🌐 WheelLog

SNSはこちら



最新情報は



Co-creation

多様なパートナーとの共創

本年度も数多くの個人・企業の皆様から会費・寄付（相続寄付を含む）によってご支援をいただき、ありがとうございました。

活動資金として大切に活用させていただきます。

👤 会費 / 寄付 / 協賛で応援してくださっている法人の皆様 ※敬称略

あいおいニッセイ同和損保

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

Islandex Corporation

アイランドクス株式会社

SEIBU 西武信用金庫 西武信用金庫

信金中央金庫 SCB 信金中央金庫

JMACS

JMACS 株式会社

FUJITEC

フジテック株式会社

MIYOSHI

株式会社 MIYOSHI

Euroclear Foundation

Euroclear Foundation

👤 クラウドファンディング 2025 高額支援の皆様

高額支援コース(50万円)

北川 絹子 様

戸部 渉 様

MIYOSHI 様

高額支援コース(10万円)

秋山広宣 様

株式会社ファインエンターテイメント 様

並木重宏 様

株式会社エヌ・ティー・エス 様

株式会社ヤエス 様

日本ムーブ株式会社 様

株式会社鳳書院 様

西武信用金庫 高橋一朗 様

橋本正博 様

株式会社川崎商事 様

ダスキンマツザカ 谷口宗治 様

JAとりで総合医療センター看護部 猪瀬明美 様

株式会社ファイヴエーカンパニー 様

ダスキン熊本 (社員・ハーティー同) 様



クラファン返礼 「特別お茶会」を開催

顔の見える語り合いで交わされた励ましの言葉から次への大きな力をいただきました。(2025.12)

●CAF America 認定取得 ●企業の共創事例 — 現場の「声」が未来を創る



2026年1月、ウィーログはCAF Americaの認定団体となりました。米国在住の方からのご寄付は、米国税制上の寄付金控除の対象となります。(2029年1月まで有効)



イベントでの車いす提供

イベント体験用の車いすは株式会社ダスキンヘルスレント事業部さまよりご提供いただきました。心より御礼申し上げます。

Health Rent 介護用品・福祉用具のレンタルと販売 ダスキンヘルスレント

西武信用金庫 SDGs 研修

ウィーログの法人スポンサーとして、約100名の職員様が車いす体験や街歩きに参加。SDGsやダイバーシティの理念を肌で学び、日常の窓口業務などに直結するバリアフリーの視点を習得する実践的な研修となりました。(2025.9・2026.1)

研修の実施やプロジェクト連携など、共創の形は様々です。ご関心のある方は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

お問合せ先: info@wheellog.org

テーマ

- ・街歩きによる課題解決
- ・ヒアリングによる品質向上
- ・体験研修による接遇の高度化

詳細はこちら





Recognition

受賞とメディア報道

ピッチ動画



社会課題解決に挑むピッチコンテスト、ignite! PITCH 2025 で最優秀賞を受賞。(2025.11)

アワード



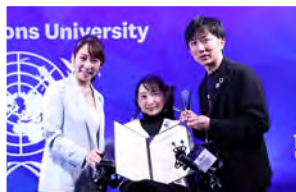
2025.11 | 第13回 Web グランプリ Web 人賞



2026.2 | READYFORアワード 2026 「イノベティブ賞」



2026.3 | ICC サミット FUKUOKA 2026 「ソーシャルグッド・カタパルト」第2位



2026.3 | Sustainable Global Award 2026 「Well-being & Community部門賞」

助成



2025.6 | 公益財団法人ヤマト福祉財団「2025 年度福祉助成金」受贈



2025.10 | 社会的インパクト投資団体「SVP 東京」投資・協働先へ選定



2025.7 | トヨタ・モビリティ基金「Mobility for ALL」活動継続チームに採択

テレビ・ネット動画

2025.7 | フジテレビ「Live News イット!」で紹介

2025.8 | 外務省公式チャンネルで紹介 (国連 HLPF 登壇)

2025.8 | 国連公式チャンネルで紹介 (国連 HLPF 登壇)

2025.12 | NHK「The Wakey Show」代表・織田友理子出演

新聞

2025.4 | 毎日新聞 (大阪・関西万博へのリフト導入経緯)

2025.5 | 毎日新聞 (車いす街歩き WheelLog! in 盛岡)

2025.8 | 日本経済新聞 朝刊 (国連スピーチ関連「誰もがどこでも行ける世界に」)

2025.10 | 朝日新聞 SDGs ACTION! (外務省・安藤重実氏インタビュー)

2025.11 | 毎日新聞 (代表・織田のコメント掲載)

2025.12 | 日経新聞 (「多様な力を社会の原動力へ」掲載)

2025.12 | 公明新聞 (赤羽一嘉議員 (元国土交通大臣) と面会)

2026.3 | 公明新聞 (「バリアフリー政策の最新動向セミナー」)

雑誌・書籍・ウェブメディア

2025.5 | CHANTO WEB 全3回・特別インタビュー

2025.10 | AERA DIGITAL インタビュー再掲載

2025.10 | 国連 80 周年バーチャル写真展

2025.11 | Forbes JAPAN 12月号「ソーシャル R&D」を実装する NPO50

2025.12 | ニュースウィーク日本版 (SDGs 特集)

2025.12 | 朝日新聞 SDGs ACTION! [ignite! PITCH] 登壇記事

2026.2 | FIT チャリティ・ラン インタビュー記事

2026.2 | 書籍『SDGs×ライフキャリア探究 BOOK (未来の授業)』

2026.2 | SVP 東京 | UBS セッション第21回 登壇レポート

2026.3 | 書籍『女の“変さ値”』(鎌田實先生 最新刊)

Financial Report

会計報告

活動計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位: 円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費		4,918,600	
2. 受取寄付金		55,209,314	
3. 受取助成金等		16,400,000	
4. 事業収益		7,199,310	
5. その他収益		253,349	
経常収益 計			83,980,573
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費	12,871,950		
(2) その他経費	24,319,782		
事業費 計		37,191,732	
2. 管理費			
(1) 人件費	2,060,312		
(2) その他経費	9,855,164		
管理費 計		11,915,476	
経常費用 計			49,107,208
当期経常増減額			34,873,365
III 経常外収益			
過年度損益修正益		0	
経常外収益 計			0
IV 経常外費用			
過年度損益修正損		0	
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			34,873,365
法人税、住民税及び事業税			82,972
当期正味財産増減額			34,790,393
前期繰越正味財産額			43,358,984
次期繰越正味財産額			78,149,377

貸借対照表

令和8年3月31日現在

(単位: 円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	63,488,209		
その他の流動資産	1,765,967		
流動資産合計		65,254,176	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	210,768		
(2) 投資その他の資産			
ソフトウェア改修積立資産	16,000,000		
固定資産合計		16,210,768	
資産合計			81,464,944
II 負債の部			
1. 流動負債		3,315,567	
2. 固定負債		0	
負債合計			3,315,567
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		43,358,984	
当期正味財産増減額		34,790,393	
正味財産合計			78,149,377
負債及び正味財産合計			81,464,944

2026年6月5日付で監事による監査が行われ、財務諸表等(活動計算書、貸借対照表、財産目録)は、当法人の財産及び損益の状況のすべての重要な点において適正に表示している旨の監査意見を受け取っています。